

大田区の取組みを Pick UP

多目的広場を活用した憩いとにぎわいの創出へ ～羽田空港跡地第1ゾーン都市計画公園の整備～



羽田空港跡地は、高度なものづくり技術を有する中小企業が集積する京浜臨海部に位置し、24時間国際拠点空港である羽田空港にも隣接するなど、優れた立地特性を活かした「HANEDA」でしかできない取組みが期待されています。その中で、憩いとにぎわいを創出する公園の整備・運営に向けた取組みを紹介します。



羽田空港跡地の背景

この土地にはかつて約3,000人の方が住んでいましたが、終戦後にGHQによる48時間以内の強制退去を余儀なくされました。羽田空港が日本に全面返還された後は、航空機騒音等にさらされました。航空機騒音や大気汚染などの問題を解決するために、地元区、都、国の3者による協議会や、住民主体により発足した協議会による様々な検討、折衝を経て、羽田空港の沖合移転とともに、そこに生まれる空港跡地の利用が決まりました。

羽田空港跡地の立地特性

羽田空港跡地第1ゾーンに整備予定の都市計画公園は、市街地からは離れている一方、羽田空港や多摩川に近接し、周辺に集客施設や交流結節点（HICity、空港ターミナル直結ホテル、天空橋駅、交通広場、ソラムナード羽田緑地など）も点在するという立地特性を有しています。

旧三町顕彰の碑 ～羽田の歴史の伝承～



これからの公園のあり方

新型コロナ危機を契機に、公園の緑とオープンスペースが持つ様々な効果・機能の重要性が再認識され、公園は、これまで以上に多くの機能や役割を発揮することが期待されています。

民間の知見や活力とともに

今後、適切な維持・運営により公園施設の適正な更新を図るために、行政だけでなく、民間の知見や活力を活用することが必要となってきます。

公園整備へのStep1 区民ニーズの把握

多くの方に愛着を持って利用してもらうには、公園整備・運営について利用者の意見・ニーズを事前に把握することが大事です。インターネットでアイデアを募集し(258件)、さらにより具体的に検討するため、意見交換会を実施しました(32名参加)。その成果を広く区民の皆さんに知ってもらうため、成果発表会で公表しました。



コロナ禍を踏まえ、一人でも多くの方に参加者の成果を聞いてもらうため、Webで生配信しました。

皆さんの意見をとりまとめて「使い方想像図」にイラスト化し、コンセプトブックを策定



公園整備へのStep2 暫定活用による実証実験

公園整備・運営の指針となるコンセプトブックを策定しましたが、それで終わりではありません。この公園をもっと知ってもらうため、認知度向上、愛着醸成につながる取組みを進めつつ、「使い方想像図」のとおりの内容がこの公園で実現できるかの検証を行う必要があります。民間事業者の協力を得て、公民連携で暫定活用を行っています。



公園整備へのStep3 事業手法の検討etc

公園の将来像ができあがったら、次は整備です。一般的には区職員が設計し、工事発注をします。しかし、この公園は公民連携を基本として整備・運営していくことを上位計画で定めています。そこで、整備にあたってどのような事業手法を採用するか、費用・工期、民間事業者へのサウンディングなどを行って決めていきます。また、都市公園法や都市計画法など関連法令を調べたり、国庫補助金の適用申請なども、公園整備には欠かすことができません。そうやって整備した公園も実際に使ってみると、想像と違うことがあります。不都合があれば、どのように改善するのがよいか考え、見直す必要があります。使う→考える→見直すのサイクルを回すことで、公園ができあがります。

